

第4回富士見市生涯学習推進市民懇談会会議録

日 時 平成30年3月27日(火) 10:00～11:40
場 所 富士見市役所 第2会議室
出席者 ○市民懇談会参加者

岩本	是永	大木	佐藤	藤川	狐塚
○	○	×	○	×	×
氣賀澤	池田	高橋	田村	大下	矢島
×	○	○	○	○	○

○事務局

【生涯学習課】和田副課長、加治主査

【地域文化振興課】中嶋課長、佐藤主査、田中

1. 開 会

2. あいさつ 岩本座長

3. 議 事

(1) 計画の進行管理について

事務局より、第2次富士見市生涯学習推進基本計画～取組みの方向性～を踏まえた実施事業について説明を行い、意見をいただいた。

委 員) 舞台芸術鑑賞会は今後も継続するのか。

事務局) 継続する考えでいる。

委 員) 水谷文化祭では本郷中学校の生徒に看板作製の参加してもらっているほか、輪投げなどのイベント運営にも協力してもらっている。

委 員) 中学生が社会に対して自発心を養うきっかけとなっており参加機会を設けていることはとてもよい。

委 員) 各基本目標に紐づく事業がかなり多い印象がある。今後実施する計画の見直しの中では、同じような催しは統合し、経費削減を図るなど、スクラップアンドビルドを行う良い機会にできればと思う。

委 員) 人口減少が多く自治体で問題となっている中、富士見市の人口は増加している。住民が何を求めているかアンケートを取る

などし、多様性に対応した取り組み、様々な人の意見を聞く機会をつくると良い。

委員) 「人材バンク」の「人材」の表記を「人財」と使い分けたらどうか。シルバー人材センターの「人材」は仕事に派遣するなどの観点から良いと思うが、市の人材バンクは貴重な財産という観点から「人財」と使い分けることも検討してはどうか。

委員) 各催しの実行委員会のメンバーが固定化している。もっと新しい人が参加しやすい、なかなか先頭に立ってくれる人いない中ではあるが、風通しの良い実行委員会をつくっていくことが大切である。

委員) 近隣には多くの大学がある。計画の見直しに何らかの形で大学生を参加させてみてはどうか。また、見直しに関わった学生を市職員として採用するなど、若者の活躍できる場を作ることも面白いと思う。

委員) 学生からアンケートを取り反映させることで、若い人にとって住みよいまちになるのではないか。

委員) 市が考える「生涯学習」のスタンスをはっきりさせた方が良いと思う。視点をはっきりさせるが大事だと思う。

委員) 市が関わる生涯学習関連事業の範囲を決めたほうが良い。市民自らの活動を促進するうえでも、市がすべての事業や催しに関わる必要はないと考える。

(2) 生涯学習推進基本計画の取り組み状況について

事務局より平成27年度から29年度に実施したまちづくり講座の取り組み状況について説明を行い、次のとおり意見をいただいた。

委員) 市の職員に自分の意見を聞いてもらえるよい機会である。
協働という意味で、直接市職員が講義を行うことは大切である。

委員) 講座を利用したことがあるが、場所の確保が大変である。

委員) 空いている学校施設などを有効活用できるとよい。

委員) 講座の内容についてはどのように決めているのか。

事務局) 各担当課に照会し、市で行うことが出来る講座を開催してもらっている。

委員) 申込方法が郵送、持参、FAXとなっているが、メールで申し込みできるとよい。

事務局) メールでの申し込み方法を検討する。

委員) 出前講座は5人以上であることや会場を予約する必要があるなど利用しづらい面もある。また、職員の土日対応もある。

例えば、CMで流れているように塾の講義録画を見ることができるよう、いくつか講座を選定し、録画したものを市ホームページでの公開やDVDなどの媒体での貸出し、図書館に常設して自由に観ることができるようにするなど出来ないか。

事務局) まちづくり講座は市民との協働によるまちづくりが基本であり、顔と顔を合わせて様々意見交換することや、職員のスキルアップも取り組みの目的となっている。当該目的からご提案の件は、どのようにすることが望ましいか、費用対効果の面も含め十分に研究することが必要と考えている。

(3) その他

事務局より今後の計画の改定に向けたスケジュールについて説明。

委員) この懇談会の内容はどこまで市の政策に反映されるのか。

事務局) 参加者からの意見は各担当課に届くように取り組んでいる。また、今後取り組んでいく基本計画の改定には、これまで市民懇談会でいただいた意見を改めて集約し反映していけるよう勧めていく。

以上